

私の家では、水道水となり町の東川町からくんできた水を使用しています。例えばお米をとぐときは水道水、たぐときは東川町の水を使用するなどして使いわけています。東川町の水を使用すると水道水とは違い、一粒一粒がふっくらとしていてとても美味しく感じます。そこで、私はこのことを基にして自然と水の関わりについて考えていこうと思いました。

まず、周りの自然について考えます。当麻町では農業が盛んで、身近に自然を感じることができません。上川盆地ということもあり作物は美味しく育ちます。地形だけではなく周りに連なる大雪山から流れてくるきれいな水も関係して美味しく育つと思えました。

そこで、多くの自然と携わっているお父さんに自然と水の関わりについて聞いてみました。水(川)は街中に行くと多くはよごれていて、山の上の方はきれいな美しい水が流れています。山からきれいな水が流れるはずが最近では少し変わりつつあります。

その理由としては、森林伐採が増加しているためです。もし、このまま森林伐採を続けてしまうと木の根が減ってしまい、土を流すことになります。「自然のダム」と呼ばれていた森林、山がその役目を果たせなくなってしまうのです。

当麻町では林業が多くありますが、林業と自然のバランスがとても大切になってきます。自然があるからこそ私たちはこうして水を飲んだり、生活することができています。その大切な自然を人間の勝手な理由で傷つけたり、うばったりすることはできるだけ避けたいと思いました。

その一方で、水は生きていく上で大切なものですが水害で多くの命をうばったり大きな被害をあたえたりします。自然災害はこの日に必ず起こるといってもないし、ある日突然おそいかかってきます。しかし、水があるからこそ今私たちが生きることができています。なので、水と共生するために全体とどう向きあい、付き合っていけばいいのかがこれからとても大切になってくると思います。

私たちは水と向き合うために、身近なことから心がけることが大切だと思います。水は永遠に続くわけではありません。しかし、「水を大切に使おう」と思ってもとても難しいことです。身近な例を挙げるとすると、歯みがきをしているとき水の量を必要最低限に抑える・お風呂に入るとき湯舟のお湯を使うなど、少しの心がけでできることはたくさんあります。その些細な心がけで世界や地球が助かると思うと難しいことも少し楽に取り組むことができました。気が向くかもしれせん。私はそう思うと少しやってみようかなという気持ちになれます。これからも、水を大切に使用していこうと思います。

私は、自然と水の関係について考えました。みなさんは、水について考えることが少ないと思うし、急に聞かれても分からないことが多いと思います。ですが、日常の中でちよつとしたことから水について考えたり、水に対する気持ちがあるほんの少しでも変わると嬉しいです。私はこれからも美しい自然と大切な水を何年も先で守り続けられるよう、若者としての役割を最後まで果たせるように努力しながら生活していけるようにしたいです。

SDGsの目標である「持続可能な社会」を目指し、少しでもその目標にたどりつけるよう、一日一日をよく考え生活していきたいです。

あたり前ですが、これから先どんなことがあるか全く想像が付きません。その中でも、きれいな自然のまま、美しい自然のまま後世に伝えるというのが私たち若者の最大の役割です。この役割を最後まで、全ての若者が責任をもって伝えていくということが私たちの重要な役割ではないのでしょうか。